

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2170103697
法人名	有限会社マイハウス
事業所名	グループホーム マイハウスすが
訪問調査日	平成 20 年 2 月 16 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 7 日
評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月7日

【評価実施概要】

事業所番号	2170103697		
法人名	有限会社マイハウス		
事業所名	グループホーム マイハウスが		
所在地 (電話番号)	岐阜市須賀3丁目17-5 (電話) 058-275-4163		

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	名古屋市昭和区鶴舞3丁目8番10号		
訪問調査日	平成20年2月16日	評価確定日	平成20年3月7日

【情報提供票より】(平成20年1月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 11 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	10 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 12 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,350 円	

(4) 利用者の概要(1月23日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	10 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81.8 歳	最低	67 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山田病院、小牧内科クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設から3年目を迎えた新進のホームであるが、法人としては既に3事業所(グループホーム)がオープンしており、そこでの経験を基に当ホームが建設された。玄関を入ると、左右に分かれてそれぞれのユニットの入り口がある。あえて1ユニット1フロアとせず、各々のユニットに1階と2階を持たせたのにも意味がありそうである。このホームの大きな特徴は、他のホームではイベントとして企画物になっている小旅行を、ほぼ毎月実施していることである。バス旅行のスナップ写真が、ホームのあちこちに掲示されていた。利用者からの発案で、弘法さんの縁日参りが行われており、交通手段としては市営のくるくるバスを利用している。弘法さんの最寄りのバス停がやや離れたところにあるため、利用者間では、「バス停の移設」を市に申し出ようとの相談も行われている。明確な理念の下、法人代表、職員、利用者が和気あいあいと生活している観が強い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での要改善指摘はなかったが、前々年評価での要改善事項を継続して改善に取り組んでいる。改善の結果として、アセスメント様式の変更、「ヒヤリハット」や「外出報告書」の導入、医療制度の充実などがあげられる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	それぞれのユニットの主任(リーダー)が、職員の意見を集約して自己評価票をまとめて上げた。各評価項目毎に「ガイドブック」で確認しながらの自己評価が行われたため、多くの気づきが得られ、円滑なホーム運営やケアの充実のための糧となった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	法人代表や主要な会議メンバーの多忙からか、運営推進会議の開催の間隔が開いている。地域住民参加による夜間想定避難訓練等、会議に諮って解決すべき課題もみられることから、定められた通りの会議開催に腐心いただきたい。会議終了時に、会議メンバーによって次回開催日時を決める等の対策も必要であろう。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	「意見箱」は設置されているものの、家族の意見や要望は直接職員に届くことが多い。職員の手を煩わせないようにと、法人代表の携帯番号が家族に知らされており、難解な問題や特命事項については、法人代表が直に対応することも多い。頻繁にホームを訪問される家族とのコミュニケーションは図れているが、訪問されることの少ない家族への情報の伝達が課題となっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム開設から3年目を迎え、課題であった地域との交流も軌道に乗りつつある。ほぼ毎月実施されているバス旅行には、地域の方がボランティアで参加されることもある。道路に面した花壇は、近隣の住民が花を植えたり水をやったりと、管理を買って出られた。地域イベントへは積極的に参加し、双方向の付き合いを目指している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念	理念の中に地域密着を明確に表す言葉は見られないが、地域密着への取り組みは進んでいる。同法人が経営する他のホームと同様、従前の理念に加えて「みんなで地域と一緒に生きていこう」の文言が加えられる予定である。		折々にホームの様子を伝える「マイハウス便り」が発行されていることでもあり、新理念をこれ等にも掲載し、ホームの内外に示されることを望みたい。
		理念の共有と日々の取り組み	「自分でできる楽しくて明るい生活」を実現しようとの法人代表の思いは、それぞれのユニットのリーダーを通じて職員に周知されている。理念に根差した職員のケアも充実しており、利用者の自立度がきわめて高いホームである。		
		地域とのつきあい	ホーム開設当初は地域の理解が薄く、苦労もあったようであるが、現在では地域の一員としての存在を確保している。ほとんど毎月実施されているバス旅行には、地域の住民がボランティアとして参加することもある。		
		評価の意義の理解と活用	自己評価に対する一般職員の関与は薄く、ユニットのリーダーがそれぞれのユニットの自己評価票をまとめ上げた。自己評価を実施する中で、新たな気づきも生まれ、自らの課題の発見ともなった。		次回評価の際には、一般職員にも参画を促し(ガイドブックを利用し)、職員自らの課題の再確認へとつなげていただきたい。
		運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議のメンバーの都合がつきにくく、開催が伸び伸びとなっている。		メンバーには、運営推進会議の意義や目的を理解していただき、定められた間隔での開催を期待したい。会議の終了時に、次回開催日をメンバーに決定してもらおうのも一策であろう。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が担当者の増員措置を講じたため、ホームと行政とはいつでも話ができる良好な関係構築が図られている。市の担当者は、ホームの運営やサービスの質の向上に対して協力的である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に、様々な情報伝達が行われている。毎月の請求書送付時には、「介護計画書」とともにカラー刷りの「マイハウス便り」が同封されて利用者の近況を伝えている。		家族アンケートでは、ホームを訪れる頻度の少ない家族(キーパーソン)の中に、運営に対する誤解や現状認識の不足がみられた。これらへの情報伝達のシステム構築が今後の課題となろう。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」はあるが、家族の意見や要望は直接職員に届くことが多い。職員の手を煩わせないようにと、法人代表の携帯番号が家族に知らされており、難解な問題や特命事項については、法人代表が直に対応することも多い。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族アンケートには、「異動の報告がない」との回答があったが、「職員の異動が少ないため、異動の連絡がされていない」というのが実情である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加は少ない。それを補うために、回数は少ないが、職員が講師役となってホーム内勉強会が行われている。介護の分野だけでなく、研究発表や外部への講演を想定して、パソコンやパワーポイントの研修も予定されている。		外部研修への参加は、職員の知識や技術の修得だけでなく、他のホーム職員との情報交換やネットワーク作りにも役に立つ。職員の育成面でのメリットは大きく、ぜひ、外部研修への参加機会を増やしていただきたい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人代表は県グループホーム協議会の役員であることから、人脈も広く情報の収集には事欠かない。協議会では研修部長を務め、業界全体のレベルアップに尽力されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>新規の利用者がスムーズにホームでの生活を始められるポイントは、利用者本人の納得と職員の受け入れの容認であるとし、利用開始前に、極力利用希望者本人が家族とともにホームを訪問してもらうようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活の中で、職員に混じって手伝いをしている利用者が多い。利用者が全員女性のユニットでは、食事後の片付けや食器の拭きあげには職員の手はいらぬ状態である。</p>		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活保護が適用されている利用者にとっては、自由になるお金にも限界がある。しかし、肩身の狭い思いをさせないように、いろいろやりくりをして他の利用者とは差がつかないように配慮している。理美容についても、ほとんど同じ対応が取られている。</p>		
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人と家族の希望や意向が聞き取られて、職員(計画作成担当者)によるケアの方針が打ち出されている。本人や家族の意向はもれなく介護計画に盛り込まれていた。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な介護計画の見直しは、原則として3ヶ月毎に行われている。骨折入院から帰られた利用者に褥瘡が見られたとのことで、急遽見直しが実施され、新たな計画が作られていた。</p>		<p>見直し時の前回計画の評価(検証)の実施にさいしては、評価の結果を次回計画にどのように反映するかの記録を残されることが望ましい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の付き添い、お墓参りや弘法さんの縁日参詣等、本人や家族の希望があれば、可能な範囲で同行・付き添いのサービスをしている。月1回の弘法さんの縁日には、往復の足として、地域の振興を支援する意味から「くるくるバス」が利用されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を重視してかかりつけ医を決めているが、利用者のほとんどがホームの提携医をかかりつけ医としており、月2回の定期往診を受けている。担当医師は他のホームのかかりつけ医としても契約があり、認知症に対する理解も深い。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人代表は、加齢による認知症レベルの低下に伴い、利用者の重度化が避けて通れない問題であることや終末期医療の必要性については十分に認識している。しかし、現時点でのホームの状況を考察し、安易に看取りの実施を宣言することには躊躇している。		現時点でのホームの方針は「看取りはしない」であろう。しかし、近い将来に条件が整って実施される場合のことを考えれば、準備段階として手続きのルール化(マニュアル作り)は必要と思われる。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会議やミーティング時には、その時の話題も交えて「プライバシーの保護」や「個人情報の取り扱い」、「守秘義務」等が話し合われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、入居者のペース、希望を尊重しながら一人ひとりに合わせた生活支援が行われている。お正月には、法人代表が着物を手配して女性利用者に着させ、お正月気分を満喫させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の手配では、同法人の経営する4つのグループホームが共同で仕入れを行い、利用者のために新鮮で選び抜かれた食材を購入している。炊事は、調理・盛りつけ・片づけなど入居者と共に行い、食事も一日の行動の一つになっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、入浴日、入浴時間は決めてあるが、一人ひとりの希望を確認し、臨機応変に対応している。ほとんどの利用者が2日に1回の入浴である。		これまでの生活習慣から、就寝前の入浴希望があり、夜間入浴の対応も検討されているとのことであり、ぜひ実現されることを望みたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	たまたま、調査当日が女性利用者の誕生日であった。3時のおやつ時に、職員のギター演奏による誕生会が開催され、90歳を越す当の利用者は笑みを絶やすことがなかった。踊りださんばかりの利用者もあり、会は盛況に進行していった。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	バス旅行を月に一回程実施し、又地域巡回バスを利用して、近くの弘法さん参りなどしている。イベント参加者の満面の笑顔の写真が居室に貼られている。旅行や散歩・ドライブなど、外出の機会を多く提供している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害は周知している。道路に面した建物の立地条件から、安全面を重視している。		現状の施錠状態を常態化せず、常に「鍵を掛けないケア」への工夫を課題としてとらえていただきたい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中の避難訓練は実施されているが、夜間を想定した地域住民参加の訓練は実施されていない。		夜間の災害発生時には、地域の協力が不可欠となる。運営推進会議等に諮り、夜間想定での避難訓練と定期的な非常食・備品の点検を実施されることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容や、利用者一人ひとりの摂取量は記録してある。摂取量については、全量摂取に向けて声かけや見守り支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は、ほとんどの入居者が共有部分で過ごしている。どのユニットも居室は1階と2階に分かれているが、ほとんどの利用者はエレベーターを使わず、階段を利用して1階と2階を行き来している。100歳を超える利用者も、元気に階段を使っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでの生活で使い慣れた物品の持ち込みを推奨しているが、馴染みの品の少ない居室が多い。居室には、バス旅行や正月の着物姿の写真が数多く貼られている。		病院や施設から転入された利用者は、荷物も少なく、殺風景な居室となりがちである。繰り返し、家族の理解を得るための説明をされ、馴染みの品で充実した居室づくりを支援いただきたい。